

SOPHIA
DRAMA
FESTIVAL



April 17 ~ May 9

Sophia Little Theatre

Sponsored by 22nd Sophia Drama Festival

Executive Committee

1981

あいさつ

学長 柳瀬睦男

語劇祭について、一言述べてほしいと言われました。上智大学の語劇祭の伝統はすでに確固とした伝統のもとに、毎年行われているのを心から喜ばしく思います。ご承知のように、上智大学の設立母胎であるイエズス会の教育方針の中に、劇は重要な要素として考えられていたので、上智大学もまたその伝統のなかにこの語劇祭が毎年多くの参加をえて発展してきたと理解しております。また、それが劇というだけでなく、外国語による劇の上演に特別な意味を認めることができると思います。それは、母国語における劇には見られないような制限もあるかわりに、そこには多くの興味のある問題も含まれているからであります。たとえば、劇と実生活について、古来、多くの人々が語り、そして書き綴ってきています。この問題は、単に教育的な要素、あるいは自己形成としての語学の研修という次元を超えた、深い人生の基本的な問題を含んでいると思います。シエクスピアにおける劇中劇の問題、あるいはゲーテの詩と現実の問題等、諸君が語劇祭に参加するときに、技術的な修練だけでなく、これらの本質的な問題にも心をいたしてほしいと望んでいます。語劇祭の成功を心から祈りつつ。

あいさつ

学生部長 粕谷友介

観劇ということでも今でも残念に思っていることがあります。この程度の語学力では、劇場などに行く柄ではないと思込んでしまっていたのです。二年間のイギリス生活も残り少なくなつた頃、「アニー」というミュージカルを観る機会がありました。それからというものの、アガタ・クリステイ原作の「予告殺人」、「オリバー」そしてシェイクスピア劇にいたるまで一週間に一度は劇場通いをしました。こんなことなら、もつと早くから沢山の演劇を観ておけばよかったと後悔したのです。その頃は多少言葉にも慣れてきたので、ストーリーにもついていけたのですが、私にとつてもつとも興味を持てたのは、人間の動作、衣装そして舞台装置でした。なかでも舞台装置は見ているだけで本当におもしろいのです。ノアの洪水の再来を天使から告げられた田舎の小さな教会の司祭が、教会の庭にノアの箱舟のような大きな舟を作るところからはじまります。その完成を見るまでの人間模様、そして実際に完成後大暴風雨が発生するので、その情景はまさに迫力があり、今でも目に浮びます。

一つの劇をつくりあげるために、目に見えない多く積みかさねが必要であり、その過程で意見のくいちがいが、調整、協力をしなければなりません。その過程での人間ドラマを通じて人間の成長があるのだと思います。そこに演劇の素晴しさがあると思っています。

語劇祭とは何か

過去の資料を繙いてみると、今日の語劇祭の前身は、今から六十年程前に溯ります。当時は英語とドイツ語のみによるものだったが、戦争で一時中断したものの、その後徐々に拡大し、昭和三十五年に、語劇祭が誕生しました。その語劇祭も今年で二十二回目を迎え、今年度より秋期のみでなく、春期にも語劇祭を開催する運びとなり、ここに第二十二回語劇祭実行委員会新入生歓迎語劇祭を開催することになりました。

また、今年度より、今までの仏語劇に加えて、新しく仏語会が語劇祭加盟劇団となり、フランス語劇は二種類上演されることとなります。このフランス語劇も、前者が仏文科の学生中心の劇団であるのに対して、後者は仏語科の学生中心の劇団であるために、それぞれのカラーを持っており、その趣旨の違いなどからしても興味深いものがあります。

さて、語劇とは一体何でしょう。私は、語劇イコール「外国及びその国の人間を理解するためには、その国の言葉を以って接するのが最も良い、という発想」プラス「演劇」と考えています。語劇祭は外国語を話す能力の発表の場ではなく、演劇の発表の場なのであります。即ち、我々の目的とする外国語劇は、その国の人々するのと同様な身ぶり、手ぶり、考え方により劇を上演することです。つまり、我々が劇をつくる際に、言葉はあくまで手段であり、目的ではないのです。

言葉、習慣が異なっても、人間は心の何処かで通じ合えるものだと思います。なぜなら、人間は誰もが人間性を持ち合わせているからです。そして演劇というものは、言葉を表現の媒体としながらも、究極的には、言葉を超越した「何か」を訴えているものです。そういう意味で、我々にも、観客に言葉を越えた感動を与えることが可能なわけで、その「何か」が観客の心の中に残れば、我々の劇は成功したと言えるでしょう。それを成功させるためには、劇の質・完成度を高めることが必要です。しかし、我々素人役者の劇で、多くの台詞の意味を理解できぬ人達を感動させるには、やはり言葉の問題というものは否めません。その言葉の障碍を少しでも取り除くべく、パンフレットにより、予備知識を事前に与えておくなどの手段をとっているわけです。ましてや商業的損益を気にせずに、大学側からの援助に甘んじている我々の立場を考えれば、現段階においては、このことは我々のとるべき当然の義務であると思われまます。いずれにせよ我々は、今後劇の質を高め、なるべく努力するしかありません。今後の語劇祭の発展に貢献しつつ……。

最後に、新入生歓迎語劇祭に向けて御支援・御協力して下さいました学生部の方々、無能な僕をささえてくれた委員・友人たちに心から感謝したいと思います。

第二十二回 語劇祭実行委員長

梶 雅 行

コロスティリョフ作

ピロスマニ

— 孤独の饗宴 —

4月17日(金) 5:30

18日(土) 2:00 5:30

登場人物

ピロスマニ　　グルジアの画家。
 イーヤ
 ロシアの画家
 「ピロスマニの絵の中の人物」
 グリゴール　　富農
 マルガリータ　　女優
 赤いシャツを着た漁夫
 三人の公爵
 門番
 ぶどう園所有者
 タンバリンを持ったグルジア女
 「その他」
 展覧会の観客
 批評家達
 ぶどう狩りをする人々。
 時
 一九一八年のある日
 場所
 ピロスマニが住んでいた階段の
 下の物置。

あらすじ

ピロスマニの前に、彼の絵の中から続々と人物が出て来る。そして口々に「自分はよく描かれていない」と言う。そればかりか、イーヤという描かれてもいない女性もあらわれる。絵は反乱をおこし、好き勝手に振まう。そんななか、彼は自分を理解してくれるロシアの画家を作り出し、彼も又現われる。画家、イーヤ、そして絵との対話のうちイーヤの正体、絵の反乱の理由をみつけ、自分の産れ出た源にもどろうとするが……

ロシアの画家

今井考春

イーヤ

増岡めぐみ

猪塚 元
増岡めぐみ

梶田 豊
富樫 敦子
篠塚 芳男
小松 久
猪塚 元
山岸 久子
山本みどり
塚田 綾子
大田 公子
田口 一哉

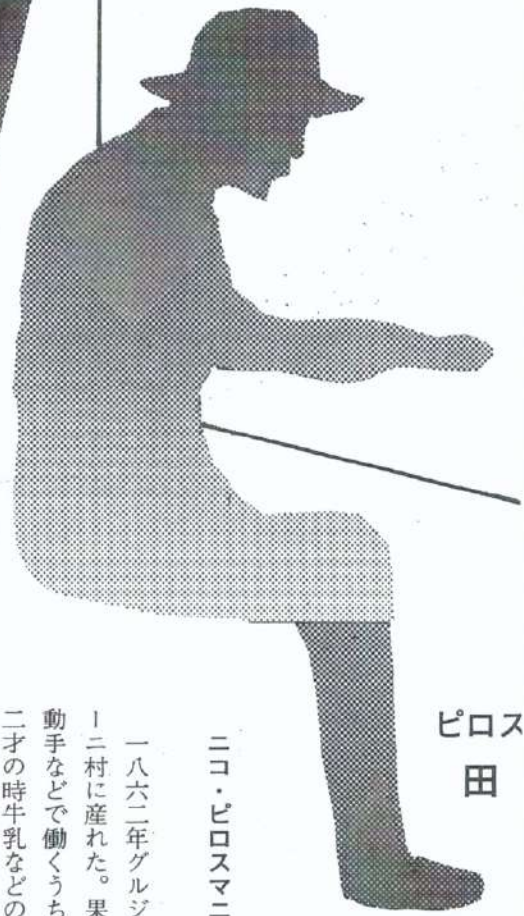
ガリーナ・イワーナヴナ
パブレンコ 助教授

語劇

ピロスマニ

出監 明効 置 裳 ク 術 指導
演語 照音 装 衣 メ イ 美 発音

ロシア



ニコ・ピロスマニ(1862-1927)

Was vollkommen ward, alles Reife — will sterben.

一八六二年グルジアのカヘチ地方のミルザ
ニ村に産れた。果樹園、印刷所、列車の制
動手などで働くうちに独学で絵を学ぶ。三十
二才の時牛乳などの商いを始めるが、手につ
かない。そのころ(一九一〇年)フランスの
踊り子マルガリータと会う。彼女への酬われ
ぬ愛は、ピロスマニを自暴自棄な生活へ追い
込んでゆくこととなった。一杯の酒を求めて、
酒屋の看板を書き、絵具箱をかかえて居酒屋
を渡り歩く生活が続いた。一九一二年に、美
術アカデミーのズダネヴィチ兄弟と、フラン
スの画家ミハイル・ルータンテューの三人が
彼をみとめ、美術協会に紹介する。そのころ
フランスでは、画家アンリ・ルソーが脚光を
浴びてまもないころだった。しかし彼の絵を
真に理解するものは、その中には誰もいなか
った。彼のもとには新聞の彼の諷刺画がとど
きただけだった。このことに彼は深く傷つき、
人との交際を嫌い、とくに画家には警戒心を
抱くようになった。

他人の不幸を喜ぶわけではないが、芸術
家が不幸な生涯を送ったと聞くと、なんと
なく安心する。時には、彼の作品がよりすぐれ
て思える事さえある。自分が、才能もないが
別にどん底に落ちこむこともなく、のんきに
暮しているせいかもしれない。

その後、病と老いを払うように酒を飲み続
けながら、絵の制作を続け、一九一八年春、
その生来の才能を認められることなく、飢え
と孤独のうちに、地下の物置で、生涯を閉じ
た。

革命時代が情熱的で造形力があるのに対し、
現代は、分別、反省の、情熱のない時代と言
われている。末の間の感激にぱっと燃えあが
っても、やがて小賢しく無感動の状態におさ
まってしまふ、と。キルケゴールの言うよう
に、アルコールと同様に分別が消費されてい
るのであろう。皆「私は賢命だ。」と言っている
ようなものである。

「からす」でも「かもめ」でも、ましてや
「熱したぶどう」でもない自分は、「私は演出」
と言いきかせ、末の間の感激を求めて、この
芝居を、つつしんでお送りいたします。

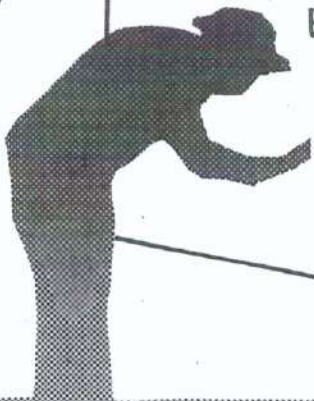
ルサルカの農夫は、「私はからす」と言い、
ニーナは「私はかもめ」と言った。この劇で
ピロスマニはしきりに「私はぶどう」と言っ
ている。そして、そのぶどうは、かつてツァ
ラトウストラに語ったように、「完全になり、
熟したものは、みな——死ぬことを欲する」
と言うのであろう。

(エキブ・ド・シネマ第22回ロードショー
「ピロスマニ」のプログラムより)

(猪塚 元)

ピロスマニの
絵の人物

飯塚真己枝
石川真理
宮本明子



(猪塚 元)

(猪塚 元)

Le Petit Prince

星の王子様

4月25日(土) 3:30~

4月26日(日) 2:30~

公演 *Le Petit Prince* (星の王子様)

原作 サン＝テグジュペリ
脚本 ジャック＝ベジノ

—— あいさつ ——

81年度・春期フランス語劇団(二年生のみにて構成)は、「星の王子様」を上演することになりました。この作品は、一九四三年、第二次大戦中、サン＝テグジュペリが亡命したアメリカで出版され、彼の最後の作品として、世界各国で親しまれているものです。それを、上智大学仏文科教授、ジャック＝ベジノ氏が脚色したものです。原作とは、ある程度異なりますが、決して原作の味わいを失ってはおりません。

フランス語を習い始め、やっと一年経った私達の成果とあわせお楽しみ下さい。

尚、御協力下さった、諸先生方、及び諸先輩方にこの場をかりてお礼申し上げます。

仏文科二年生一同

キャスト

Le Petit Prince (王子様) 増田 浩一
La Fleur (花) 古谷 優佳
Lectrice (語り) 山口真知江
Le Pilote (飛行士) 白井 慎一
La Reine (女王) 小津美智子
La Vaniteuse (うぬぼれ屋) 嶋岡万里子
Le Bureur (酔っ払い) 長崎 達也
Le Businessman (実業家) 遠藤 牧人

L'Allumeur de Révervères (点燈夫)

砂田 辰之

Le Géographe (地理学者) 林 享

Le Serpent (へび) 前橋由美子

Le Renard (きつね) 岡田 典子

スタッフ

広 告 伊東朗子・広田豪紀・藤川裕章・宮川裕子
 照 明 三浦健生・須田雅志・山下佳江・大森丈子
 メイク 金留和行・妻倉ゆり子・吉原美恵
 会 計 鏑山光世・永井敦子
 音 効 石井勝彦・青木雅史・池田真実
 大 道 具 伊藤香月・本間徹也・宮本和生・田村信幸
 山本誠治
 小 道 具 大門亮一・桑原智子・福井典子
 美 術 伊藤和博・山上明子
 衣 装 蛭川章子・楨野彰子・落合智絵美・山本恭子
 舞台監督 村上充英
 ♪ 助手 渡会由美
 演 出 光藤 賢
 発音指導 ジャック＝ベジノ教授



仏語劇

あらすじ

舞台は、サハラ砂漠の真中で、不時着した飛行士と王子様の出会いから始まります。飛行士は、飲み水も少なく、あせって修理をしています。そこへ、一人の王子様が、現われ羊の絵を描いてくれとせがみます……。

この王子様は、自分の小さな星で、たった一人で暮らしていましたが、ある日どこからともなく種が飛んできて、やがて芽を出し、花を咲かせます。王子様は、この花の為に色々な事をしてやりますが、花のわがままに耐えきれなくなった王子様は、本当の友達を見つけない旅に出ます。

途中、彼は、色々な星に立ち寄り、臣下も権力もないのにいばりくさっている、女王の星、自分一人しかいないのに、自分が一番美しいと思っている、うぬぼれ屋の星、酒を飲むという恥を忘れるために酒を飲む、酔っ払いの星、星の数を記帳しては、自分が所有していると思いついている実業家の星、命令に忠実で、融通のきかない点燈夫の星、現実や現象だけを大切にしている地理学者の星。そして、彼が最後にたどり着いたのは、地球でした。この「星」で王子様は、自分にとって「花」がかかけがないものであった事をきつねに教えられ、自分の星に帰る決心をする。飛行士、きつねを友として……。毒蛇の助けをかりて……。

愛の発見

この物語に関しては、様々な解釈がなされ

この物語を主題とした研究会も沢山あるようです。しかし、やはりこの童話の中に秘められているのは、「心の余裕」と「愛」であると思われまます。この作品が出版された時代は、第二次大戦が熾烈なものとなった時期でありサン||テグジュペリは、王子様を通して、世界に平和を訴えたかったのではないのでしょうか。

劇の冒頭で王子様が花に恋をします。しかし、花を満足させてやる事だけに気をとられ、自分の心を見失ってしまいます。そして、旅に出た王子様は、満足する事だけに気をとらわれている人々に出会い、それが大変滑稽である事に気付きます。だから、王子様は、飛行士に羊の絵を描かせたのです。「心の余裕」を取り戻させるために。

きつねに、「一番大切なものは、目に見えないのさ、心の目で見なきゃね。」と教えられ、自分の花に対する愛を見出し、彼は、自分の星へと帰って行く。

忙しすぎるあなたへの警告かもしれません。「心の余裕」と「愛」を見失いませんように。さて、そろそろ王子様の旅が始まります。

A media luz los tres

スペイン演劇研究会 引退公演

ラスト・ダンスはあなたと

ミゲル・ミウーラ作

5月1日(金) 5:00~

2日(土)・3日(日) 1:30~

(日本語字幕付き)

キャスト

Alfredo (アルフレード)

高橋直行

Sebastián (セバスティアン)

白倉克典

Paca (パカ)

Marivi (マリビー)

Elena (エレーナ)

Lulú (ルルー)

岩川佳代

スタッフ

演出 岩川佳代

舞台監督 高橋直行

照明 其輪真次・吉田貴巳

音効 中村哲雄・中村 明

大道具 宮地卓哉・梶 雅行・池田 均

小道具 木村裕美・寺田恭子

衣装・メイク 石井和江・廣井晶子・

秀野早苗

字幕 石川ひろ美・吉田利江子・

土屋伸子

春のブザーが鳴って

5月の幕がサッとあがったら

僕は皆様に向かって深くお辞儀をします。

これまでの人生

たいして面白いこともなかったのですが

そこはこのピエロのこと

トンガリ帽子をかぶりさえすりゃ

何でもない恋だって

おもしろ・おかしく

涙なしでは語れないステキな大恋愛にして

みせましょう。

このほほの涙はいかが

6月の雨の青さで描いてみました。

あのまっ白な雲が水平線のかなたに届いたら

くるりと宙返り。

もう一つ宙返り

これまでの人生

たいして面白いこともなかったのですが

そこはこのピエロのこと

皆様の胸ゆする哀しみ

おなかの皮よじらす笑い

どちらもお届けいたしましょう!

hemos dicho.

P. S.

なお、途中劇の構成上3度程、幕をしめさせて頂きますが、決してまだ劇が終わったわけではございません。ほんの2・3分のことですので、あまりおおらかにお弁当をひろげて下さいませぬよう、心よりお願い申し上げます。役者が目のやり場に困りますので。

あらすじ

〈第一幕〉

アルフレードは、女性のことは何でも知り尽くしていると自負する独身男である。今、彼の部屋には友人であり既婚者のセバステイアンがおり、アルフレードは彼に得意の女性論をぶっていた。そんな時、女友達の一人、マリビから電話があり、これから会いに来るといふ。彼女を迎えるアルフレード流の準備をしている真最中に呼び鈴の音。予想外の急襲に二人はあわてたが、やって来たのは家政婦のパカであった。パカを追い出してしばらくすると、マリビがやって来た。アルフレードはまだ帰らないセバステイアンを早いとこ帰そうとするが、アルフレードがちよつと部屋を出た隙にマリビとセバステイアンはデートの約束を……セバステイアンが帰った後、アルフレードはムード作りに苦心するが仲々うまくいかない。ところが、グラスを重ねて酔いが回ってきた頃、話しは結婚の方向へ……。

〈第二幕〉

アルフレードがコーヒーを挽いていると、エレーナという既婚女性から、これから会いに行くという電話。エレーナは決心して彼の所へ来たというのだ。ここぞとばかりアルフレードは奮起するも空振り気味。そこにセバステイアンの登場。何と彼は、マリビとうまくいって、彼女に頼まれアルフレードの持つ彼女の写真を取りに来たのだ。ところが、ここでエレーナとセバステイアンが衝突、この二人がいい仲だったことが発覚する。しかし、セバステイアンは、自分が好きなのは、マリビでもエレーナでもなく海の魚だ、(彼は海に潜って魚をとるのが趣味なのです)と言って立ち去る。彼の言葉に刺激されたか、アルフレードの努力にもかかわらず、エレーナは夫のもとへ帰ってゆくのでした。無念!

〈第三幕〉

アルフレードはひどい風邪をひいている。部屋には何故かセバステイアンがいる。マリビとエレーナから電話がかかってくるが、アルフレードの家だというのに、両方ともセバステイアンへの電話である。おまけに、セバステイア

ンはこれから逢引きだという。頭にきたアルフレードは彼を追い出し、電話帳を引張り出して女友達に電話をするが駄目。そこにルルという若い女性がやって来る。彼女は恋人と喧嘩別れして、払えなくなつた部屋代を借りに来たのだ。二人は話していく内に気が合つて、ルルは別れた恋人を気にしながらも遂に二人は結婚を約束する。さてさて、三度目の正直になるでしょうか? 結末はいかに?

扉を開けて、薄暗がりの中に身を滑り込ませると、扉の外とは全く異なる時間空。劇場という所は、常にそういう感覚を催させる。

芝居は、体験の創造とも言えるものだ。現実生活に存在していないひとつの世界を現出し、しかもその中に普遍的なこの世の実相を昇華させてはじめて、演ずる側の熱い想いを観客に伝えることができる。構成された空間と時間の中で、舞台と客席とが向かい合うにせよ、共に歩むにせよ、いかにして観る側に体験を共有してもらうかが苦勞のしどころである。その瞬間を夢みる役者やスタッフは、自分が創造しようとする世界に耽溺するのではなく、冷静な観照者のまなざしをも同時に己れに向けている必要がある。言わば、演劇人は、絶えず自分を外から見る第三者を、自分の中に置かねばならないようなものだ。ここから、すべての芝居の技術というものが発すると言えるだろう。

自分のものではない人生を、生身の人間が有形無形の血と肉とを駆使して体現する。異なる時間軸と空間軸とを有するもうひとつの現実を生み出す。こうまで人を魅きつけてやまない演劇の磁力は、この、ささやかな人間に許された最大級の可能性と、それにも増して、観客に、存在の素晴らしさと哀しさを同じくする者として、何かひとつでも伝え得た時の何物にも代え難い喜びである。

理屈はさておき、この薄闇の中でのひとときを楽しんでいたきたい。つきつめればそれだけが我々の願ひなのである。

では、どうぞ、扉を。

仏語会第8回公演

ウジエヌ・イヨネスコ原作

“飢えと渴き(全4話)”より

第一話—逃亡

第二話—待ち合わせ

5月8日(金) 6:00~

5月9日(土) 2:00~

6:00~

プロットの断片

第一話

薄暗いアパートの一室。幾度住まいを変えても落着くことのできないジャンの不満。それを通じて浮かびあがってくる彼の苦悩の真の根源。彼にやすらぎを与えたいと思いがながらもどうすることもできない、妻マリー・マドレーヌ。その愛情を示す、やや叙情的な場面と、それに続く、壁のしみをめぐる対話。アデライド伯母さん(実は幽霊)の登場と、彼女の途方もないホラ話。暖炉の火に投影さ

キャスト

Jean 黒川慶一

ジャン

Marie-Madeline 江藤方美

マリ・マドレーヌ

Tante Adélaïde 阿部いづみ

アデライドおばさん

Première Gardienne 川口さち

守衛1

Deuxième Gardienne 長坂かずえ

守衛2

スタッフ

演出 西村 学

製作 山北忠弘

舞台監督 橋本信樹

照明 橋本信樹

音効 松村弘之

舞台美術 松村弘之

衣装・メイク 山上昌子

小道具 長坂かずえ・川口ちさ

顧問 ガブリエル・メランベルジェ先生

第二話

れたジャンの過去の一端。彼と妻との対位法的旋律。心の絆を断ち切って、放浪の旅に出發するジャン。残されたマリー・マドレーヌのモノローグ。思いがけないものの出現。幕。

明るく空気の澄みきった遠い異郷の地。とある博物館。二人の守衛にいきさつを物語る旅人ジャン。思いおこす妻の言葉。だが薄れてゆく記憶。相手のない待ち合わせ。またも行き違い。閉館時間。夜の闇に消えるジャン。夕食へ急ぐ守衛。幕。

la huitième représentation périodique
La Soif et La Faim d'Eugène Ionesco
Premier épisode-La Fuite
Deuxième épisode-Le Rendez-vous

演出家からのメッセージ 西村 学

私たちのような零細しろうと外国語劇団にとって、上演作品の選定はいつも悩みのタネです。単に作品として優れているだけでなく、乏しい技量やさまざまな制約の範囲内でできるもの、しかも、必ずしも文学を専門とはしない私たちが、共感と親しみをもってそれなりに表現できるものとなんと、見つけ出すのは容易なことではありません。

数あるフランス語の戯曲のなかで、ウジエーヌ・イヨネスコの一連の作品は、そうした意味でも貴重な存在といえます。そこには仰々しさや観念的な難解さは少しもなく、むしろ「円熟したナイーヴさ」とでもいうべきものが、語りかけてきます。まるで教科書の例文のように平易に書かれていながら、ときには詩情さえただよい、ふところの深さを感じさせるのです。それだけの内容を、彼ほどムダなく直截に劇にまとめあげることができる人は、そう多くはないでしょう。

演出家にとっても、イヨネスコはやりがいのあるものです。あの一見淡々とした脚本を舞台のうえで立体化するためには、固定観念や擬似文学性にとらわれることなく、いわば純演劇的に造型を施してゆかねばなりません。読んだだけではわからない彼の作品の真価は、そうしたコツを会得したとき、はじめてくつきりと浮かびあがってきます。それは、演劇というもののもつ固有の論理やダイナミズムについて考えさせてくれる、格好の「演出入門」でもあるのです。

さて仏語会は、その末だ長いとはいえない歴史において、すでに二度イヨネスコを手がけ（77年冬「瀕死の王様」、79年春「禿の女歌手」）、それなりの成果を収めてきました。今回の「飢えと渇き」では、人手と時間と能力の都合上、残念ながら前半だけしかお目にかかれませんが、それでもなお、何かまとまった雰囲気のようなものを感じとっていただけましたら、まずは成功といえるでしょう。観客のみなさんと共にそのような充実したひ

とどきが創り出せるよう、精一杯努力したいと思えます。

では、どうぞ最後までごゆっくり御覧ください。

イヨネスコ再び

「仏の顔も三度」という諺があります。演出家からのメッセージでも述べたように、仏語会にとってイヨネスコの作品は、三度目の挑戦です。三という数には、なにかぎりぎりのもうこれ以上譲れないイメージがあります。一度目は初めてという事で、やり遂げただけでも評可されるでしょう。二度目では前回の経験を生かして、がんばっているなど見て下さる方もいらっしやいます。が、三度目になると、ただ一生懸命やっていると、努力しているだけでは許されないのが現実です。言ってみれば野球の三振のようなものです。アウトかセーフか、今回は私たちにとってのターニングポイントになるであろう公演なのです。

などと申しましたが、あらゆる芝居に共通して言えるのは、完全な成功があり得ないように、完全な失敗も又ないのだという事です。どんな芝居にも、何かしら一つぐらいは長所があるものなのです。今回私たちはその「一つぐらいの長所」を、「芝居全体のアンサンブル」という点に絞ってみました。各スタッフ・キャストの個性もさることながら、「飢えと渇き」を一つの芝居として見た場合、どの程度の完成度であるのか（完成度などという単語自体がおこがましいのですが……）そんな点からも皆様の御批評をいただきたいと思っております。

最後に一言。仏語会の顧問であるフランス語学科のメランベルジュ先生は、仏様も顔負けの忍耐強さで、いつも私たちに付き合ってください。仏語会の公演も今回で八回目という事は、「メランの顔も八度」という所でしょうか。八度と言わず何度でも、十八面観音になるまでよろしく願います。日頃言えない感謝をこめて。

(M・E)

仏語会

このささやかなスペースを借りて、もと学長のピタウ先生と、もと学生部長の若林先生に感謝したいと思ひます。

お二人とも、語劇祭をあたたく見守つて下さり、多大な援助を惜しまず送つて下さいました。そのことには、語劇祭関係者一同、心より感謝しております。

また、学生部の方々も手数のかかる我々にさじを投げることなく、おつきあい下さり、感謝の言葉もないほです。

語劇祭を真の意味で上智の全学的な行事として定着発展させることがピタウ先生、若林先生に対する我々の最大のお礼だと思ひます。

このたび春期にも、語劇祭が行なわれることとなり、新しい学長や学生部長のお言葉をいただき、このパンフレットが成立した次第です。

(学生部の方には、秋、春と二回もお世話になることになりましたが…) 今後よろしくお願ひいたします。

委員長	梶 雅行(西語三)
副委員長	光藤 賢(仏文二)
書記	富樫敦子(露語三)
会計	吉田利江子(西語三)
後援会委員	猪塚 元(露語四)
	江藤方美(仏語三)
	黒田 宏(独語二)
	品川札孝(独語二)
	小津美智子(仏文二)
	白井慎一(仏文二)
	鏑山光世(仏文二)
	長坂かずえ(仏語二)
	飯塚真乙枝(露語二)
構成レイアウト	其輪真次(西語三)
美術	猪塚 元(露語四)
	田口一哉(露語四)
印刷	三鈴印刷(株)

▲プーシキン大学5ヵ月私費留学生募集!

はじめて開かれたソ連への私費留学の道。応募者至急申込み!

▲ロシア語短期講座(3ヵ月~6ヵ月) 入門から上級、ゼミナールから

昼間、夜間、日曜コース 4月・7月・10月・1月 開講

▲春期集中講座 3月中旬 夏期集中講座 7月上旬

▲ロシア語夏期大学 8月上旬

新宿会話教室 初級・中級 夜間

▲ロシア語学力検定試験 初・中・上級 10月施行

〒156 世田谷区経堂1-11-2

ロシア語
専門学校

日ソ学院

小田急線経堂駅南口3分

学則 300円

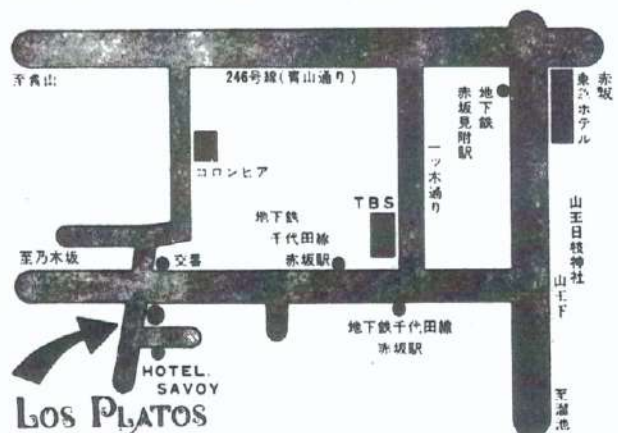
スペイン居酒屋 料理店
日本の中のスペイン

LOS PLATOS

平日、祝日 14:30~22:30

港区赤坂6-13-11 テラス赤坂1F

TEL 583-4262 日曜定休



春の語劇祭を迎えるにあたり、四劇団の中で我がドイツ語劇だけが春の公演を行いませんでした。そのかわり、といつては何ですが、この場をかりて簡単に劇団の紹介をさせていただきます。

ドイツ語劇は一般のサークル活動とは異なり、常に一定のメンバーが固定しているのではなく、毎年秋の公演を活動の目的として劇そのものをやりたい人を募り、公演を終えるとともに解散という形式をとっています。今年「ドイツ語劇グルッペ81」という形で運営されるわけですが、実際この原稿を書くことが今年の活動の第一歩ということになりました。このような形で運営されるようになったのは、一九七三年の第十四回語劇祭からです。この年にドイツ語劇の主催もドイチェルリンクから独立したドイツ語劇実行委員会へとつりました。以前の公演の際には、学科の教授の演出・指導のもとで、ドイチェルリンクというドイツ文化研究会が主体となっていました。この頃は独文、独語科のほとんどの学生がドイチェルリンクに所属していたようで、語劇も学科中心の活動という感じだったそうです。しかし、現在のドイツ語劇は前述したとおりに、あくまでも語劇をやってみたくてという有志の人々で構成されています。年ごとに活動は全く別なものであり、そのためひとつの組織として不十分な点もあります。事実、

毎年一度の公演を終えると次の年度になるまでは実質的な活動はなくなるので、責任者の引き継ぎがうまくいかなかったこともあります。けれども、そうした運営の形をとっているからこそ、年ごとに劇にそれぞれ違った味を出すことができるのです。活動は常に無からの出発であり、はかりしれない可能性を持つていっているのです。

今この原稿を書いている時点では、活動の柱となる演出以外はまだ何も決まっています。これから戯曲を決定し、役者を集め、そして発声練習、読み合せ、合宿、立ち稽古……と続いていくわけです。毎年このことですが、外国語で劇を演ずることの意義とか、日本語の感情をドイツ語でどう演技として表現するか、といった恐らく難解な問題から、人間関係のむづかしさ、あるいは資金集めといった切実な問題まで種々雑多な問題が次から次へと出てきます。しかし、そうした壁を乗り越えて公演を無事終えた時の充実感なんともいえないものです。今年も将来のそのような漠然とした不安と期待を胸に秘め、ドイツ語劇グルッペ81の活動が始まろうとしています。

★ポリカラー
コンバージョンフィルター } 発売元

★舞台スタジオ照明器材・消耗品の販売

★舞台照明器具レンタル部…御利用下さい…

★舞台・TV照明設計・操作請負

★照明設備・舞台機構に関する
総合コンサルタント・設計・施工



株式会社

東京舞台照明

本社 東京都渋谷区千駄ヶ谷3-51-4
☎151 TEL. 03(404)2611(代表)
大阪支店 大阪府吹田市垂水町3-27-28
☎564 TEL. 06(380)2211(代表)

APPRENDRE + ESSAYER = COMPRENDRE!!

(基本レッスン80分)

(応用会話40分)

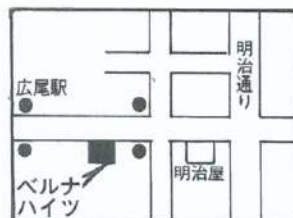
- ・フランス語上達の為には今習った文法を、実際の会話の中で応用する事が大切です。
- ・フランス人教師による準プライベートレッスン(8人制)。
- ・フランスへの旅行・留学を予定される方に適した実用会話が身につきます。
- ・フランス留学受付中 ランブイエ校・カステルノーダリ校

- ・授業時間 1:10~ 3:20 4:00~ 6:05
6:15~ 8:20
- ・教材 モージェ・ルージュ I II カペル III
- ・入学金 1万円
3ヶ月 3万5千円 半年 6万2千円

ランブイエ カルチャー センター
(地下鉄 日比谷線 広尾駅下車 徒歩1分)

渋谷区広尾5-4-11
ベルナハイツ3A-4

☎(440) 3765

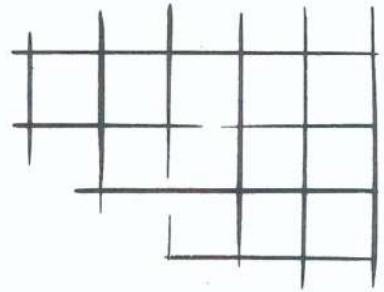




大小御宴会承ります

はな やま
酒 蔵 華 山

四谷駅前しんみち通り 電話 358-7948



El Castellano

スペイン風田舎料理

本当のスペイン料理を知って
もらおうと、Sr. Vicente が
腕をふるってあなたを待って
います。



El Castellano

●営業時間 PM 5:00~PM 11:45
●渋谷区渋谷 2-9-12 丸三青山ビル
☎03(407)7197 (日曜定休)

キリスト教書籍と典礼用品

中央出版書店

AM9:30~PM6:00

☎(03)357-6401

〒160 東京都新宿区四谷1-2

ドラマは生きたセリフ
その国で学ぶ生きた外国語

スイス教育財団

EUROCENTRES

日本オフィス ユーロセンタージャパン

101 千代田区神田駿河台2-12 深井ビル4階 電話: 295-5441

「ユーロセンター」「国際学生寮」「FIYTOトラベルカード」
各案内書をお送りします。ご請求ください。

喫茶 & パブ
トムキャット

ニューオータニ店

10種類のピザがござい
ます。

3月中旬 新築オープン
各種パーティー承ります



ニューオータニホテルB1F Tel. (262) 6883

CUT SAISON
hair à la mode
Beauty salon

セゾン美容室

四谷店 ☎355-0707

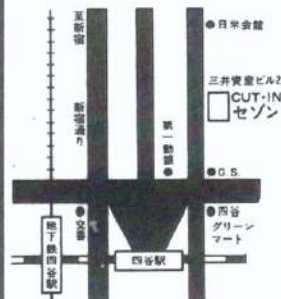
主婦の友技術協力店

受付時間 パーマ・ヘアダイP.M6:00

カット……………P.M6:30

金曜日 OLデー30分延長

定休日……………日曜日



学生証を持参下さいませ2割引致します。

アメリカンが飲み放題

毎月14日は「カンタータデー」です
可愛いキャンデーをプレゼント

ケーキ&
コーヒーショップ **カンタータ**

四谷店 新宿区四谷1-7 浜ビル1F TEL (357) 8728・9890

中目黒店 目黒区上目黒1-23-7 加藤ビル1F TEL (715) 8708・(710) 8723

ロシア料理

渋谷 **ロゴスキー**

СИБУЯ

《РОГОВСКИЙ》
クラス会、同窓会、
コンパに……………!

営業時間 A.M.11:30~P.M.10:00

プラザ店 渋谷駅南口バスターミナル前東急プラザ9F
☎(461)5084 (463)3665

新館 渋谷駅南口交通公社前大和田ビル2~3F
☎(463)2911~3

横浜店 横浜駅西口相鉄ジョイナスB2
☎横浜(321)6666~8

《ロシアより愛をこめて》



国際劇場脇

電話 (843) 0881 代表 本館 別館 共通



SOPHIADRAMAFESTIVAL



露語 7/5(金) 5:30
8/6(土) 2:00
5:30
仏劇 5/25(土) 3:30
6/26(日) 2:30



西語 7/5(金) 5:00
8/6(土) 1:30
9/3(日) 1:30
仏語会 5/6(金) 6:00
6/6(土) 2:00
6:00

開場30分前

於：上智小劇場

四劇団共通400円